

学生による地域活性化提案プログラム報告書（21年度）



まえがき

学長 原 陽一郎

「学生による地域活性化提案プログラム」は学生に対して職業人としての基礎的能力を鍛える目的で18年度に一部のゼミで試験的に実施し、19年度から3、4年次ゼミの6割以上が参加する全学的な取組に発展しました。そして、19年度に文部科学省の「現代的な教育ニーズ取組支援プログラム」の「特に優れた取組（現代GP）」に選定され、特別補助金の交付対象のなると共に大学教育改革合同フォーラムのポスターセッションで発表しました。

本格展開から3年、本プログラムは学生の職業人としての基礎的能力を鍛えるという点では予想以上の効果があることが明らかになってきました。そればかりではなく、学生グループの調査研究の結果や提言に対して長岡の行政や市民活動の関係者から思いもかけぬ高い評価と期待を頂いてきました。

本年度もプログラム推進委員会、地域連携アドバイザーの皆様方、ならびに、学生の調査にご協力頂いた市民の皆様のお陰で、10のゼミナールの学生グループが調査研究の結果と提言をまとめました。今年2月に行われた成果報告会にも、市の責任者や市民団体の役員、さらに市議員や教育関係者、学生の家族や一般市民など約100人の方々に聞いて頂きました。

このプログラムは図らずも人材育成と地域貢献を同時に行うという優れたもので、日経新聞社の全国大学地域貢献度ランキングで長岡大学が2年連続してベスト10に入りましたが、マスコミは長岡大学の地域貢献活動の中で、このプログラムにもっとも関心を持ってきています。地域社会の課題を対象に学生グループが調査研究し提言する取組は他の大学にも少なくないのですが、必須のゼミとして全学的な取り組みで実際にたくさんの学生が参加している例は大変に珍しいようで、多くの大学からも問い合わせを頂きました。

皆さまのおかげで本プログラムは「人づくりと実学実践教育」という長岡大学の教育の特徴を象徴する中核的な取り組みに育ってきました。文部科学省の特別補助金交付は終わりますが、長岡大学の教育の目玉として、さらにレベルを上げて継続していきます。今後ともご支援、ご協力、よろしくお願いいたします。

平成22年3月